

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月13日（日）午後1時30分～2時30分
場 所 富田小学校 体育館
出席者 富田小学校区未就学児保護者 8名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

①教育長あいさつ

②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）

③質疑応答

参加者 校区としては森目で、富田小学校になるが、統合した時にスクールバスで通学となっているが、それは変わらないのか。

市教委 小学校への通学ということか。それについては、今と変わらない。

参加者 今、子どもはまだ小さいが、今回の説明会で小学校などのイメージができてよかった。質問も考えていたが、これが時代の流れであれば、子どもと一緒にがんばっていきたいと思った。

参加者 1歳と3歳の子がいるが、今後、再編が進むことは自分の中で心配があった。しかし、総合的にさまざまな教育を準備していることや専門の教科の教員に教えていただけるなどの面も知れて、安心した。

参加者 子どもが0歳で、令和8年度の時に1年生になる。現在、福井で教師をしているが、大野市に帰ってきて大野市で教員をしたいと思った時に、学校数が減る現状もあり、その辺も踏まえて考えていければと思った。説明で元の学校にいた教員が統合先の学校に入ってくると思う。教員数の関係も絡んで話もされると思うが、若者の要望も話に入ったらよいと思う。

市教委 大野市の教育を魅力的にすることで、教員にとっても働きがいがあり、新採用時に市外に赴任した教員も含めて、大野で教鞭をとりたいと思う安心して魅力的な環境にしていかなければならないと思っている。

参加者 0歳ともうすぐ3歳になる子がいる。来年、荒島保育園に入れたいと思っている。来年は阪谷保育園と統合するという話を聞いたが、これも学校の再編の話があってそのような話になったのか。

市教委 去年、将来を見据えた説明を阪谷保育園の保護者にしたが、思いが上手く伝わらなかった。小学校も保育園も無くすという誤解が生じた。その後、阪谷地区区長会へも説明したが、今すぐ阪谷保育園を無くすことはない。

しかし、令和2年度から5年間の計画である「子ども子育て支援計画」の改訂時には、議論になってくるとされる。心配をお掛けした。

- 参加者 資料で、自分の子どもが入学する頃には、このくらいの人数だということが分かり、イメージが湧いたので参加してよかった。
- 市教委 今年の4月から保育園、認定子ども園も全て教育委員会で管轄することとなった。勉強だけでなく、子育て支援を一貫して進めていく。生まれてから高校までスムーズにいくように、園長と小学校の校長会で話し合っている。小中学校間では、これまでも校長会・教頭会で話をしており、高校は県立高校なので県教育委員会が担当であるが、中学校校長と高等学校長との間でも話を進めており、うまく繋がるようにしている。各家庭に配布された第六次大野市総合計画の概要版にスマートフォンをかざすと動画で説明するようになっているが、その動画でナレーションをしているのは高校生である。何年も前から、市と高校とが地域に繋がりを持たせて、いつかまた大野に帰ってもらい、大野に住み続けてもらいたいという取り組みを行っている。
- 参加者 保護者の負担軽減という点で、体操服やうち履き等を購入するためとあるが、それ以外のランドセルや制服なども購入しないといけないと思う。3年生だと半額補助とあるが、どれくらいの金額になるのか聞きたい。
- 市教委 小学校3年生で、最初から富田小学校に入学という場合は、そのままできるといいことになる。
- 参加者 阪谷からくる子が購入するということか。
- 市教委 そうである。しかし、例えば、富田小学校も阪谷小学校もナップランドである。富田小は黄色と決まっており、阪谷小は好きな色を選んで使用している。統合時に阪谷小の子どもたちが、今まで背負っているナップランドで通うことでも良いと思っている。また、富田小は黄色となっているが、「自由にしてはどうか」という意見があればPTAで相談していただければと思う。体操服についても、統合したから全て一緒に揃えないといけないとも考えておらず、少しずつ調整ができればよいのではないかなと思う。また、そのようなことを認め合える学校であって欲しいと思う。
- 参加者 児童数の推移を見て、学級数とかどのような形で学校生活を送れるのかを思い描くことができ、参加してよかった。再編では登下校の負担が非常に大きいと思う。学年ごとに人数が違うので、毎年の協議というのも難しいと思うし、中学校再編や小学校再編まで時間があるので、しっかり固まっているものでもない。自分の子どもは学校に入ってから何年もたっているので、子どもには中学校に自転車を通わせたいと思う。
- 市教委 皆さんの感想を聞かせていただくと、0歳児、未満児といった保育園にも入っていないお子さんもいるが、保育所・認定こども園では0歳児からの大事な「育ち」の部分での保育であり教育があると思う。小学校に上が

った時の保育園との一番の教育の違いは、時間割である。教育委員会で就学前の子どもも所管することになったので、皆さんの感想を聞かせていただいて、われわれはしっかりと0歳からの保育の学び育ちを小学校の教育につなげていかなければいけないと感じた。

④閉会のあいさつ（事務局長）